

《題目》「学卒の私が、研究開発に転職 その2」

前回からの続きです。

有名大学卒は、就職に有利です。でも、現在の大学受験で試されるのは、殆ど“記憶力”だけです。想像力や抽象力・独創性・発想力・指導力・協調性・問題解決力など、所謂、学力だけでは評価できない能力こそが、企業であれ、官庁であれ、あらゆる組織で重要だと思います。私の学業成績は、田舎の小学校で中の下、田舎の中学校で中の上、しかし高校で急成長し、高校では、2流校でしたが、3年間1番を譲ったことはなく、静岡全県の同学年の高校生が参加する模擬試験では、常に約30万人中30番以内でした。2年生の秋に、先生より、『手塚、頑張れよ。このままいけば、東大と京大の医学部では、ひょっとすると合格できないかもしれないが、他なら必ずどこでも行けるから』と言われました。私は、それ以来、それまでのように勉強することを辞め、生徒会活動等を積極的に行うようになりました。

記憶力だけしか評価しないことに嫌気がさしたのです。勉強はできないが、皆を先導することに優れた奴、とても優しくて信望のある奴など、同級生には、様々な能力を持った奴がいました。彼らが、授業中に居眠りでもしようものなら、殆どの先生が怒鳴りつけていました。しかし、私が寝ていて、怒られたことはありません。何故、差別するのでしょうか？勉強（＝記憶力）が優れていれば、賢い人間だからですか？

バイオ・ラッドの研究開発に転職して、6年後、米国本社より、日本の研究開発本部を閉鎖するとの方針が下され、バイオテクノロジー研究用の機器や試薬を販売するライフサイエンス事業本部に移動し、学術部門のトップになりました。トップの私は学卒。部下の殆どは、修士か博士。出身大学は、東京大学・大阪大学・北海道大学・名古屋大学・東京農工大学・筑波大学・東京理科大学・熊本工業大学などの有名校出身者が殆どでした。

このような中で、一部の学問的知識では、部下の方が知っていることがありましたが、学術部門で必要とする学術的顧客対応や顧客の問題解決力、自部門だけでなく、他部門も含めた労働の効率化改善など、総合的能力では、私に勝る部下は居なかったと思っていますし、上司の事業本部長も認めてくれていました。

私が訴えたいのは、『大学名だけで人を判断するな』と言うことです。『勉強ができる＝賢い』のではないのです。『有名大学を出ている＝ただ、お勉強ができた人』なのです。『勉強もできるし、本当に賢い人』もいるでしょう。しかし、『勉強は、中程度でも、賢い人』もいます。正直に書きますが、『勉強が全くできない人で、賢い人』は、少なくとも、私は出会っていません。組織が効率的に機能し、全体としてより多くの成果を上げるためには、

『お勉強だけができる人』が居ては、反ってマイナスになります。『賢い人材』が重要であり、『お勉強ができるバカ』は要りません。

さらに、日本企業では、運動部に所属していた人を多く採用しています。体力があるので、極端な長時間労働をさせても大丈夫。また、運動部は『先輩に言うことに絶対服従する』、そのような精神性を持っています。だから、会社に入っても、上司に逆らうことなく、絶対服従で仕事をこなす。『使い易い』からです。上司の命令や会社の方針に、疑問を持ち、それを訴える社員こそ重要だと思いませんか？国際化が進み、世界が日本市場を狙っている現在、外国企業と対等以上に渡りあえる人材こそが必要ではありませんか？

◆◆06 Nov, 2018 opened◆◆